「新時代に対応した高等学校改革支援事業（普通科改革支援事業）」

普通科新学科通信

No.２　　令和４年10月４日発行　　発行　探究科設置準備委員会

前回の通信では新学科の設置枠が３つあると書きましたが、本校の新学科はこのうち、「学際的な学びに重点的に取り組む学科」になります。では、実際に本校ではどのような学科を目指すことになるのでしょうか？本校が文部科学省に提出した実施計画書の中身を本号から、抜粋して掲載していきます。新たな取組もありますが、これまでに実践してきた取組もあることが分かります。

１　ねらい

現代的な諸課題に対応するため、大学等で構成するコンソーシアムの支援のもと、学際的な分野に関する学校設定教科に関する科目「探究基礎」及び「探究ゼミ」と、「総合的な探究の時間」や各教科・科目を有機的に結びつけた探究的な学習を重視した教育活動を展開し、普通科における教育課程の弾力化や教科等横断的な学習の推進の取組により、本校生徒の能力の伸長に資するとともに、これからの普通科に求められる教育のモデルとしての役割を果たす。

２　取組の内容

（１）ICTの活用を含め、国内外の大学や研究機関、国際機関等との同時双方向型の授業を取り入れたSociety5.0に対応するためのカリキュラムの一層の改善・充実

ア　選択した社会課題に対し、多様な学問領域からアプローチする探究活動の実施

イ　探究活動の充実に必要となる学校設定教科に関する科目の開設　例：「探究基礎」、「探究ゼミ」

ウ　大学等との連携による「出前授業」、「講義の受講」、「講演会」等の実施

エ　企業等と連携した合同研究や商品開発等の実施

オ　自治体等と連携した施策改善に向けた提案等の実施

（２）スーパーサイエンスハイスクール事業で蓄積した探究手法を応用するとともに、理数分野以外における探究手法の構築及び実践

ア　SDGsの実現に向け、年度を継続した学校全体の探究活動の取組

イ　現代の諸課題の解決に向けて多様な学問領域からアプローチする探究活動

ウ　１学年「探究基礎」、２学年「探究ゼミ」を履修するとともに、総合的な探究の時間を１単位増加することにより、SSHで培った探究のプロセスや科学的アプローチの方法の定着（※新学科が設置される令和６年度入学生から適用）

（３）外国語教育の充実及び英語によるディベート、プレゼンテーションの実施による実践的英語力の育成

ア　本事業指定校間の連携による情報交換や研究協議の実施及び生徒交流

イ　海外の高校生とのオンライン交流事業の実施

（４）目的の達成度を可視化できる評価方法の作成と、年度ごとのカリキュラム・マネジメントの適切な実施

ア　探究活動を踏まえた学習全体に対する生徒の自己評価の実施

イ　運営指導委員会による各種取組の評価及び改善に向けた指導助言

（５）探究活動成果の積極的な外部発信

ア　成果発表会を一般公開で開催

イ　学習成果を他の高校に発表する「探究サミット」の実施

３　期待される効果

（１）生徒がグローバルな視点から社会課題の解決に向けた学びを深め、その解決方策について探究することで、これからの社会に貢献しようとする意識を高めるとともに、主体的に考え行動する力を身に付けることができる。

（２）探究活動を通して、様々な立場の人々と協議し、フィールドワークをすることにより、多様な視点から考えを深めることができると考えられることから、グローバルで多様な視点をもって課題解決にあたるグローバルリーダー・イノベーターを育成することができる。

（３）本校の取組を全道・全国に普及することにより他の普通科高校の探究活動の改善・充実に資することができる。